

## 幼児教育学科 2年 前期 専門科目

1. 社会的養護 I
2. 子どもの食と栄養 I
3. 子ども家庭支援論
4. 教育相談
5. 保育内容(造形表現)の指導法
6. 保育内容(言語表現)の指導法
7. 特別の支援を必要とする子どもの理解 II
8. 教育と社会
9. 教育方法論
10. 保育内容(総合表現) I
11. 臨床美術の実践 I
12. 保育実習指導 I-③
13. 保育実習 I-②
14. 保育実習指導 II
15. 保育実習指導 III
16. 保育実践演習

幼児教育学科						
科目名: 社会的養護 I				担当教員 氏名: 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士等の資格を有した教員が、相談援助、自治体の計画策定等の実務経験を生かして授業を行う						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
社会情勢が大きく変わる中で、子どもとその家庭を取り巻く環境も変化してきている。社会養護の役割の重要性も強く求められている。養護にかかる児童福祉の基本的な視点を学び、専門職員の役割のあり方を考察する。						相談機関、命、防止、保障、施設、親子
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 8. 10	
A 知識・理解力			養護についての基本的な知識や背景を理解し、要養護の支援体系を理解する。			
C 論理的思考力			児童養護問題の整理と対策等について、整理された考え方を身につける。			
E 自己管理能力			授業に対し、適切な学究姿勢や真摯に取り組む態度を身につける。			
G 倫理観			児童福祉についての倫理観を育て、社会規範を培う。			
H コミュニケーション力			他者と協調しながら意見を聞き、自分の考えを的確に伝えることができる力を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 40 %		発表: 0 %		実技試験: 0 %
その他: 10 %						
特記事項: その他とは出席状況や受講態度のことである。						
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適時レポート評価、テストを実施する						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適時classroom等で行う						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①現代社会における社会的養護の意義と変遷				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②子どもの権利擁護と社会的養護				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③家庭の機能と社会的養護				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④社会的養護の基本原則Ⅰ 養育——日常生活支援				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤社会的養護の基本原則Ⅱ 保護——自己実現に向けた支援				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもであることへの回復——治療的支援				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力の習得——自立支援				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成——生と性の倫理				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨社会的養護の制度と実施体系				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ——乳児院と児童養護施設				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ——障害児の入所施設				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ——児童自立支援施設と児童心理治療施設				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬家庭養護の特徴・対象・形態——里親とファミリーホーム				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭社会的養護の現状と課題				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 「児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ」萌文書林 吉田眞理 編著 ISBN978-4-89347-324-0				その他参考文献など:厚生労働白書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): Google ClassroomやGoogle Formsを連絡や評価に使います。						

## 幼児教育学科

科目名: 子どもの食と栄養 I			担当教員 氏名: 藤本 孝子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
本授業では、栄養の基礎知識を学ぶとともに、小児の身体の発育・心の発達における食生活の役割を理解する。						小児栄養、食生活、健康			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			栄養学の基礎知識を理解する。						
B 専門的技術			小児の発育・発達の各過程における栄養と食生活の特徴を理解する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	50 %	レポート:	30 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項:その他については、授業への取り組み姿勢や演習プリント等の提出状況などが含まれる。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:試験問題の解説を行う。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な 時間(分)			
①子どもの健康と食生活					【予習】教科書(子どもの健康と食生活の意義)を読む。 【復習】①の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
②栄養の基本的概念					【予習】教科書(栄養の基本的概念)を読む。 【復習】②の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
③栄養素の種類と機能 ・炭水化物					【予習】教科書(栄養に関する基本知識)炭水化物を中心に読む。 【復習】③の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
④栄養素の種類と機能 ・脂質					【予習】教科書(栄養に関する基本知識)脂質を中心に読む。 【復習】④の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑤栄養素の種類と機能 ・たんぱく質					【予習】教科書(栄養に関する基本知識)たんぱく質を中心に読む。 【復習】⑤の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑥栄養素の種類と機能 ・ミネラル・ビタミン					【予習】教科書(栄養に関する基本知識)ミネラル・ビタミンを中心に読む。 【復習】⑥の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑦食べ物の消化と吸収					【予習】食べ物の消化と吸収に関する資料を読む。【復習】⑦の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑧栄養の理解のまとめ					【予習】教科書(栄養に関する基本知識)を読む。【復習】⑧の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑨食事摂取基準と食品群					【予習】教科書(食事摂取基準と食品群)を読む。 【復習】⑨の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑩献立作成と調理の基本					【予習】教科書(献立作成と調理の基本)を読む。 【復習】⑩の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑪乳児期 ・授乳期の食生活					【予習】教科書(乳児期の食生活)を読む。 【復習】⑪の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑫乳児期 ・母乳栄養について					【予習】教科書(母乳栄養)を読む。 【復習】⑫の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑬乳児期 ・人工栄養について					【予習】教科書(人工栄養)を読む。 【復習】⑬の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑭乳児期 ・乳汁栄養の実際①					【予習】教科書(乳汁栄養、調乳の手順)を読む。 【復習】⑭の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
⑮乳児期 ・乳汁栄養の実際②					【予習】乳汁栄養に関するプリントを読む。 【復習】⑮の復習を行う。	【予習】60分 【復習】60分			
使用テキスト: 発育期の子どもの食生活と栄養、菅原 園 他, 学建書院 ISBN978-4-7624-3877-6					その他参考文献など: やさしく学べる子どもの食 ―授乳・離乳から思春期まで― 堤ちはる・平岩幹男, 診断と治療社				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):日頃から、自分自身の食生活にも興味関心を持つようしてください。									

科目名: 子ども家庭支援論				担当教員氏名: 江藤 裕子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		DV支援電話相談や子育て支援相談員としての実務経験を活かして、特別なニーズを持つ家族への支援の特性を教授していく。				
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
家族を取り巻く社会環境の変化を背景に、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。保育の専門性を活かしながら、様々な家族のニーズに応じた支援体制を提供するため、子ども家庭支援の現状と課題についての理解を深める。				・家庭 ・社会的状況 ・保育技術の活用 ・援助技術 ・支援体制 ・社会資源 ・連携方法		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9		
A 知識・理解力	子ども家庭支援の意義と役割について理解する。					
B 専門的技術	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。					
B 専門的技術	子育て家庭に対する支援の体制について理解する。					
D 問題解決力	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 70%	発表: 30%	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 授業終了時に適宜振り返りシートを配布し、記入後に回収し、その全体的なものをもってレポートととし、評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク、プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜、意見発表と提出物をもとめる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出物の意見を集約後、クラス全体に配布。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【子育て家族・家庭とは】 家族の意味、家庭の形態			事前: 教科書P7~10を読み理解しておく 事後: 自身の家族観を振り返る		予習: 120分 復習: 120分	
②【子ども家庭をとりまく現状と課題】 家族の形態の変化			事前: 教科書P11~13を読む 事後: 家族形態の変化を理解		予習: 120分 復習: 120分	
③【子ども家庭支援の目的】 子育て家庭をとりまく社会環境の変化			事前: 教科書P14~15を読む 事後: 少子化の背景の理解		予習: 120分 復習: 120分	
④【子ども家庭支援の必要性】 子育て困難のさまざま			事前: P33~「貧困化」を読む 事後: 貧困の背景の理解		予習: 120分 復習: 120分	
⑤【子育て支援施策・次世代育成支援施策】 支援制度の国際比較			事前: P29~「情報化・高学歴化」を読む 事後: 国による支援の違いを理解		予習: 120分 復習: 120分	
⑥【子ども家庭支援のあり方】 保育士による子ども家庭支援の意義と基本			事前: P37~「母親のみの育児」を読む 事後: 父性母性理解の振り返り		予習: 120分 復習: 120分	
⑦【子ども家庭支援のあり方】 保育の専門性を活かした援助の実際 親支援プログラム			事前: P42~52「子育て負担感」を読む 事後: 親支援プログラムの振り返り		予習: 120分 復習: 120分	
⑧【子ども家庭支援のあり方】 保護者のエンパワーメント向上に資する支援の実際			事前: 体験学習サイクルの演習 事後: 支援メニューを振り返る		予習: 120分 復習: 120分	
⑨【子ども家庭支援のあり方】 保育の専門性を活かした援助の実際 地域資源の活用			事前: P52「制度の現状」の理解 事後: 県内の支援体制を分析する		予習: 120分 復習: 120分	
⑩【保育士に求められる基本的態度】 参考資料を活用しての事例の検討			事前: 事例の理解 事後: レポートの再考		予習: 120分 復習: 120分	
⑩【保育士に求められる基本的態度】 参考資料を活用しての事例の検討			事前: 事例の理解 事後: レポートの再考		予習: 120分 復習: 120分	
⑫【多様な支援の展開と関係機関との連携】 DVの背景の理解 テートDVワークから			事前: P81~84「対象と援助」を読む 事後: P118~126「DV」を読む		予習: 120分 復習: 120分	
⑬【多様な支援の展開と関係機関との連携】 要保護児童とその家庭への支援			事前: P109~110を読む 事後: P111~117「育てにくさや障害」		予習: 120分 復習: 120分	
⑭【多様な支援の展開と関係機関との連携】 社会資源の提供と連携			事前: P129~131を読む 事後: 受けた講義を振り返る		予習: 120分 復習: 120分	
⑮【子ども家庭支援の現状と課題】 保育士に求められる子ども家庭支援の全体像の理解			事前: 課題をひいた教科書内容を再読 事後: 自身の理解を振り返る		予習: 120分 復習: 120分	
使用テキスト: 『実践 家庭支援論』松本園子・他著 ななみ書房 ISBN 978-4-903355-65-8				参考文献など: 『親教育プログラムのすすめ方』ひとなる書房 『子ども虐待としてのDV』星和書店		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 支援の方法、技術をより確実に理解するために、事例検討と体験型ワークショップを多く取り入れていきます。						

## 幼児教育学科

科目名: 教育相談				担当教員 氏名: 石津 孝治					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 臨床心理士としての心理臨床経験に基づき、事例を提示し、事例検討を行うことにより、理解を深める。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
幼児児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身につける。					・カウンセリングの理論・事例検討				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9.				
A 知識・理解力	カウンセリングの理論と技法に関する基礎的概念を理解する								
B 専門的技術	保育者に必要なカウンセリングの技法を身につける								
D 問題解決力	教育相談における各々の理解と援助の方法がイメージできる								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	100 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク)									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜レポートを課し、採点し返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①保育の場における教育相談の意義について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
②カウンセリングの理論と技法に関する知識を習得する①(人格理論等)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
③カウンセリングの理論と技法に関する知識を習得する②(カウンセラーの態度等)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
④カウンセリングマインドについて学ぶ(1)(母親の相談事例を読み、対応を考える)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑤カウンセリングマインドについて学ぶ(2)(母親の相談事例全体を読み、再度考察する)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑥カウンセリングマインドについて学ぶ(3)(子どもの事例全体を読み、再度考察する)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑦子どもにみられる心がかかわる問題1(食行動の異常について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑧子どもにみられる心がかかわる問題2(かん黙、排泄の障害について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑨子どもにみられる心がかかわる問題3(チックや習癖について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑩園におけるいじめと不登園について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑪人間関係の理解と支援について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑫乱暴をする子ども理解と支援について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑬発達障がいの子どもの理解と支援について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑭被虐待児の心理や心理的援助について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
⑮園・地域における専門家との連携による相談・支援について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。		復習20分			
使用テキスト:				その他参考文献など: 『子どもの理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美 編 ISBN998-4860151430					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(造形表現)の指導法				担当教員 氏名: 岡野 宏宣					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのよ臨床美術士、中・高美術教員の経験から実際に作品制作を行うことを軸とし、保育者として子どもの表現に共感する力 な授業を行っているか: や、子どもと造形活動を行うための工夫する力を身に付けることを目的とした授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
子どもが楽しめる様々な造形表現活動の課題に取り組む(グループ活動もあり)。そのなかで、課題の趣旨を理解して、自ら感じ・考え・表現し、時にはグループで協力して課題に取り組む態度を培う。また、自らが保育士・幼稚園教諭として当該活動を子ども達と行なうことを想定して、各課題の後に学びをふり返り、整理・記録を行なう。					・子どもの造形表現活動 ・個別学習とグループ学習 ・学びのまとめ(造形表現活動の意義や内容、子どもへの援助・留意点などの整理・記録)				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)						
			1. 2. 3. 5. 7. 8. 9. 10						
A 知識・理解力			保育・教育の場における造形表現活動の意義や内容について理解することが出来る。						
B 専門的技術			保育・教育関係の教職員としての造形表現活動に関する技術を習得する。						
D 問題解決力			保育・教育関係の教職員として、子どもの造形表現行為に関する意義や内容、援助や留意点などに関してまとめ、整理して記録することができる。						
H コミュニケーション力			造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者を理解し、コミュニケーションを育むことができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 『レポート(50%)』は、「授業の振り返り」とレポート課題である。『発表(50%)』は、課題作品・提出(課題によっては発表あり)・授業態度である。									
アグディブラーニング授業: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業後に「授業の振り返り」を課題として課す。3回目、7回目、12回目、15回目にレポート課題を課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート課題へコメントをつけて返却する。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
① 幼児の造形教育のねらい					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
② 教材づくり・素材との出会い					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
③ 保育者の役割・子どもの主体を生かす保育					事後: レポート課題	120			
④ 造形に関する模擬保育の実践・教材研究の進め方					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑤ 乳児の表現・五感や身体感覚					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑥ 身体表現と造形表現・音楽表現と造形表現					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑦ 絵画における発達段階・子どもの絵の意味					レポート課題	60			
⑧ 立体による造形表現の発達					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑨ 材料体験による創意工夫Ⅰ・絵の具・クレヨン・パス・マーカー・ペン・鉛筆・色鉛筆					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑩ 材料体験による創意工夫Ⅱ・画用紙・和紙 紙の種類や特徴 活用・版画					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑪ 材料体験による創意工夫Ⅲ・砂と土・粘土造形					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑫ 材料体験による創意工夫Ⅳ・牛乳パックと段ボール箱・新聞紙・紙コップ・紙皿					レポート課題	120			
⑬ 心を支える美術の力・障害児と造形表現					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑭ 幼児造形教育の歴史と海外の美術教育					事後: 授業振り返り 制作課題	60			
⑮ 幼児教育の広がり					レポート課題	120			
使用テキスト:				その他参考文献など: 樋口一成(編著)「幼児造形の基礎」くもん書林					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 課題として制作課題があります。材料準備も課題の一つとしてとらえましょう。									

幼児教育学科						
科目名: 保育内容(言語表現)の指導法				担当教員 氏名: 藤井 徳子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: お話の会に所属し定期的に保育所や幼稚園、図書館でおはなし会を行ってきた経験を活かし、 授業では学生に対し具体的かつ実践的に読み聞かせや、素話の語りなどを指導している。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
幼児教育において育みたい資質能力と、その育ちに求められている援助のあり方について 5領域の1つである『表現』という視点から考える。特に、様々な児童文化を通して育つ『言語 表現』に焦点を当て、体験を通して児童文化の楽しさに触れると同時に、基本的な扱い方や 作り方などの技術修得を目指す。					児童文化 児童文化財 わらべうた おはなし 絵本 人形劇 パネルシアター ペーパー サート	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5, 6, 7, 8, 9	
A 知識・理解力			幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」、特に「言語表現」の ねらい及び内容並びに全体構造を理解する。			
B 専門的技術			言語表現教材の基本的な扱い方の技術を習得する。			
D 問題解決力			様々な児童文化に関する言語教材の活用法を理解し、保育構想に活用できる。			
H コミュニケーション力			言語表現活動(教材)を通して相手(子ども)とのコミュニケーションを育む。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 30 %	発表:	%	実技試験: 30 %	その他: 40 %
特記事項: 自発的な授業外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業・レポートの進め方および評価方法を説明します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートにコメントを記載して返却						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な 時間(分)		
① 幼稚園教育要領における領域「表現」特に「言語表現」におけるねらいと内容			【事前】1年次「保育表現技術」 「保育内容(言葉)」の振り返り 【事後】①の復習	120		
② 幼児期の言語表現に関する教育内容と指導上の留意点			【事前】②の予習【事後】②の復 習	120		
③ 幼稚園教育における言語表現に関する評価について			【事前】③の予習【事後】③の復 習	120		
④ 幼児期の言語表現体験と小学校教科との関連			【事前】④の予習【事後】④の復 習	120		
⑤ 絵本① 絵本の選び方と紹介			【事前】⑤の予習【事後】⑤の復 習	120		
⑥ 絵本② 絵本の読み方			【事前】⑥の予習【事後】⑥の復 習	120		
⑦ 絵本③ 絵本の読み聞かせ 演習			【事前】⑦の予習【事後】⑦の復 習	120		
⑧ 子どもとお話の世界 (特別講義)			【事前】⑧の予習【事後】⑧の復 習	120		
⑨ おはなし① 素話・人形劇			【事前】⑨の予習【事後】⑨の復 習	120		
⑩ おはなし② おはなしの選び方・語り方			【事前】⑩の予習【事後】⑩の復 習	120		
⑪ パネルシアター(情報機器の活用を含む)			【事前】⑪の予習【事後】⑪の復 習	120		
⑫ 言語表現教材を用いた保育構想と指導案の作成			【事前】⑫の予習【事後】⑫の復 習	120		
⑬ 言語表現教材を使った実践①(個別発表)			【事前】⑬の準備【事後】⑬の復 習	120		
⑭ 言語表現教材を使った実践②(個別発表)			【事前】⑭の予習【事後】⑭の復 習	120		
⑮ 幼児の言語表現に関する保育実践の動向			【事前】⑮の予習【事後】⑮の復 習	120		
使用テキスト: 古橋和夫編著「保育者のための言語表現の技術」萌文書林 ISBN: 978-4-89347-194-9				その他参考文献など: ①松岡享子 著「こども・こころ・こ は」こぐま社 ②松岡享子 著「サンタクロースの部屋」こぐ ま社 ③松岡享子 著「子どもと本」岩波新書 ④松岡享子 著「えほんのせかいこどものせかい」日本エディターズク ール出版部		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育現場で必要とされる言語表現活動について、理論と実践の両面から学びを深めます。授業外の時間を積極的に使って、自ら言語表 現技術の引き出しを増やしてください。						

幼児教育学科

科目名: 特別の支援を必要とする子どもの理解 II				担当教員 氏名: 林原 洋二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのよ放課後等デイサービスや児童発達支援、富山大学研究員としての研究成果をもとに、実践例うな授業を行っているか:を紹介しながら、学生が主体的に考えることのできる授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
本科目では、様々な障害のある子どもにとらえ方及び支援方法について学びます。グループワークや発表、演習を通して、具体的な支援技能を身に付けます。また、保護者との関係作りについても理解を深めます。					障害児 支援内容・方法 統合保育 問題行動 保護者支援	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動 目標		2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力	様々な障害の特徴と、障害のある子どもの実態のとらえ方、支援方法について理解することができる。					
B 専門的技術	障害のある子どもに対し、実態把握とそれに基づく支援計画が作成できるようになる。					
D 問題解決力	演習を通して、障害のある子どもに適した対応方法を自分なりに工夫して、具体的に考えることができるようになる。					
F チームワーク・リーダーシップ	障害のある子どもへの支援方法についての演習を通して、お互いの考えを出し合ったり、相手に配慮したりしながら意見をまとめる力を養う。					
G 倫理観	障害のある子どもやその保護者への対応や他の機関との連携にあたって、保育士として身に付けておくべき倫理を知り、身に付ける。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: ・上記「その他」においては、授業への取り組み姿勢や受講態度等で評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 デイタカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・適宜小テスト、課題レポートを実施する。最終試験は、別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ・試験については採点し返却する。レポートについては、コメントを記し返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①導入:「気になる子」と発達障害 (小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
②自閉症スペクトラム(ASD)児の理解と支援の実践 (①の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
③注意欠陥多動性障害(ADHD)児の理解と支援の実践 (②の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
④未就学児の発達障害支援の国の仕組み・様々な障害の理解 (③小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑤発達に特性のある子どもの遊びの支援 (④小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑥保育現場における特別に支援の必要な子どもへ支援 (⑤の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑦児童発達支援事業所での支援の実践 (⑥の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑧放課後デイサービス事業所での支援の実践(⑦の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑨関係機関との連携(⑧の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑩感覚統合とは何?～基礎編～ (⑨の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑪言語聴覚士による言語発達の基礎 (⑩の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑫保護者支援(障害受容の困難さ) (11の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑬諸外国の保育事情 (12の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑭保育者のマaltリートメント(虐待防止に関して) (13の小テスト)				【復習】レジメに沿って授業内容を整理しまとめる。	【復習】60分	
⑮まとめ (14の小テスト)				【予習】障害児保育Ⅱ全体の復習をする。	【予習】60分	
使用テキスト:				その他参考文献など: 発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち (SB新書)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 多くの保育所や幼稚園で、障害のある、またその疑いのある子どもが保育を受けています。障害のある子どもを理解し、その支援技能を身に付けることは、保育士にとって、欠かすことのできない要件です。しっかり学習してください。						



## 幼児教育学科

科目名: 教育と社会				担当教員 氏名: 宮越 浩子					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次	前期	専門科目	講義	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 小学校教員としての実務経験を活かして、教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全などについて具体的に教授する。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
現代の学校教育に関する社会的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。					現代の学校教育 学校と地域 学校安全				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7.					
A 知識・理解力		教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応について理解する。							
C 論理的思考力		現代の学校教育に関する社会的事項等を論理的に分析・考察し、表現する。							
H コミュニケーション力		テーマに対する自分の考えをグループ内や全体に伝え表現するとともに他者の考えを理解し、自分の考えや在り方を明確にする。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: ほぼ毎回授業時に、その日の学びについてのレポートを課す。そのレポートを提出後に評価を行う。上記の「その他:30%」の部分では、授業での取組・参加姿勢・態度を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ほぼ毎回ミニレポートを課すと同時に第8回でまとめのレポートを課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートは評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①学校巡る近年の様々な状況の変化について				【予習】実習での学びを振り返る。 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
②子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題について				【予習】前時の復習 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
③近年の教育政策の動向について				【予習】前時の復習 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
④諸外国の教育事情や教育改革の動向について				【予習】前時の復習 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
⑤地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法について				【予習】前時の復習 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
⑥地域との連携を基とする開かれた学校づくり・園づくりについて				【予習】前時の復習 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
⑦学校の管理下で起こる事件・事故と危機管理・事故対応、学校安全の必要性				【予習】前時の復習 【復習】授業の学びをもとレポート作成	【予習】130分 【復習】130分				
⑧生活安全・交通安全・災害安全等の課題と具体的な取り組みについて				【予習】前時の復習	【予習】260分				
使用テキスト: 使用しない。				その他参考文献など: 「社会を結び直す—教育・仕事・家庭の連携へ(岩波ブックレット)」本田由紀 岩波書店 「子どもの「命」の守り方—変える! 事故予防と保護者・園内コミュニケーション」掛札逸美 エイデル研究所					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ■自分自身が幼稚園・保育所から高校まで受けてきた教育を振り返りつつ、現代社会での教育・幼児教育・保育などに関心を持って、主体的に授業に参加してほしい。■随時資料を配布し、資料をもとにレポートを課す。ファイルに綴り、毎回授業時に持参すること。									

## 幼児教育学科

科目名: 教育方法論				担当教員 氏名: 宮越 浩子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	講義	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 子どもがどのように、感じ、考え、行為し、意味をつくり続けていく存在かを実務経験に基づいた視点の提供をする。そのことによって、子どものよさや可能性を具体的に把握し、教育方法に結びつける実践力を養う。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
幼児期にふさわしい教育の方法について、「環境を通しての教育」と「遊びを通しての指導」について理解を深める。それらをコアにして、子どもたちが必要な体験を積み重ねていくようにするための保育形態や評価について関連付け考える。さらに、家庭や地域との連携の中で、それらの学びが小学校の学びへと発展的に結び付けていくことの重要性について理解する。						環境を通しての教育/遊びを通しての指導/保育形態/評価/小学校教育との連関/家庭・地域との連携			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.				
A 知識・理解力			環境を通しての教育、遊びを通しての指導という幼児期にふさわしい教育の方法の意義を理解することができる。						
C 論理的思考力			幼児期にふさわしい教育を推進するための保育形態や評価のあり方について考えることができる。						
D 問題解決力			現在の教育問題を踏まえ、小学校との連結や家庭・地域との連携のあり方について、具体的な事例を通して考えることができる。						
H コミュニケーション力			カウンセリングマインドの重要性を理解し、相手を尊重し、その人の心に寄り添う態度を備えたコミュニケーションを図ろうとする態度を持つことができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: アクティブ・ラーニングの一環として、グループ討議とその成果物を重視する。具体的には、各回の授業を振り返りまとめたファイルを中心に評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各回の学びを整理・記録したファイルを作成し、それをもとに考え、記述するレポート課題を適宜実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 最終回に授業のまとめとして総括しコメントする。									
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)			
						学習内容	学習に必要な時間(分)		
① 幼児期にふさわしい教育の方法(コア)について理解する。						【予習】教科書(幼児期にふさわしい教育の方法)を読む。【復習】①の復習	90分		
② 幼児の主体的な生活を基盤とする保育のあり方について理解する。						【予習】教科書(幼児の主体的な生活を基盤とする保育)を読む。【復習】②の復習	90分		
③ 遊びのなかの学びをはぐくむ保育について理解する。						【予習】教科書(遊びのなかの学びをはぐくむ保育)を読む。【復習】③の復習	90分		
④ 方法としてのさまざまな保育形態(含む: 教育機器)について考える。						【予習】教科書(方法としてのさまざまな保育形態)を読む。【復習】④の復習	90分		
⑤ 保育におけるのぞましい評価のあり方について考える。						【予習】教科書(保育における評価)を読む。【復習】⑤の復習	90分		
⑥ 幼児期の教育と小学校教育の連関について考える。						【予習】教科書(幼児期の教育と小学校教育の連関)を読む。【復習】⑥の復習	90分		
⑦ 家庭や地域と連携した保育のあり方について考える。						【予習】教科書(家庭や地域と連携した保育)を読む。【復習】⑦の復習	90分		
⑧ 保育におけるカウンセリングマインドについて考える。						【予習】教科書(保育におけるカウンセリングマインド)を読む。【復習】⑧の復習・これまでの講義の振り返り	90分		
使用テキスト: 小田豊・青井倫子編著『幼児教育の方法』北大路書房				その他参考文献など: 島田教明・辻井正『0歳からの教育』オクターブ					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料はファイル等して保管し、授業時に持参すること。									

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(総合表現) I			担当教員 氏名: 新任教員、國分、荒木、西浦、林						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択				
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択)			
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか:			授業では、後期に行われる創作ミュージカルの台本と作曲のメンバーが作成に取り組み、他の学生は既成 の小ミュージカルの発表に向けて舞台作りに取り組み。ピアノは個人レッスンによって童謡の弾き歌いのレ パートリーを増やしていく。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ピアノのレッスンを通して演奏技術を高めながら、童謡のレパートリーを増やしていく。また ミュージカルに取り組むことによって、台本、作曲、造形(舞台作り)、歌唱力、演技等の幅広 い表現力を身につける。					童謡のレパートリー 総合的表現力				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 7. 9. 10				
A 知識・理解力			ミュージカルを作り上げるための知識を身につける。						
B 専門的技術			歌唱、ピアノ、作曲、造形、演技等の総合的表現力を身につける。						
F チームワーク・リーダーシップ			他者との協調性を生み出し、音楽、舞台作り等の各分野におけるリーダーシップを養う。						
H コミュニケーション力			全員でミュージカルを作り上げるために欠かすことのできないコミュニケーション力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	30 %	その他:	20 %
特記事項: 「その他20%」の部分では授業での学習姿勢を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表や実技試験は別に定めた日時に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 個々に評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①【荒木・國分・西浦】創作ミュージカルの説明      【】ピアノ課題曲の確認と指導				自主練習	60分以上				
②【荒木・西浦】小ミュージカル台本読み1      【國分】創作ミュージカル台本作成1 童謡弾き歌 い1				自主練習	60分以上				
③ 台本読み2		台本作成2		童謡弾き歌い2	自主練習	60分以上			
④ 歌唱指導1・伴奏指導1		台本作成3		童謡弾き歌い3	自主練習	60分以上			
⑤ 歌唱指導2・伴奏指導2		台本作成4		童謡弾き歌い4	自主練習	60分以上			
⑥ 衣装・音合わせ1・伴奏指導3		台本作成5		童謡弾き歌い5	自主練習	60分以上			
⑦ 大小道具・音合わせ2・伴奏指導4		台本作成6		まとめ(中間)	自主練習	60分以上			
⑧【荒木・西浦】小ミュージカル音合わせ3【國分】創作ミュージカル 作曲1      【山本】童謡 弾き歌い6				自主練習	60分以上				
⑨ 音合わせ 4		作曲 2		童謡弾き歌い7	自主練習	60分以上			
⑩ 演技・歌唱指導・演出 1		作曲 3		童謡弾き歌い8	自主練習	60分以上			
⑪ 演技・歌唱指導・演出 2		作曲 4		童謡弾き歌い9	自主練習	60分以上			
⑫ 演技・歌唱指導・演出 3		作曲 5		童謡弾き歌い10	自主練習	60分以上			
⑬ 演技・歌唱指導・演出 4		作曲 6		童謡弾き歌い11	自主練習	60分以上			
⑭ 演技・歌唱指導・演出 5		作曲 7		童謡弾き歌い12	自主練習	60分以上			
⑮ 演技・歌唱指導・演出 6		作曲 8		童謡弾き歌い13	自主練習	60分以上			
使用テキスト: 音楽リズム(東京書籍)、子どもの歌ベストテン(ドレミ出版)				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育内容(総合表現) I はミュージカルの授業とピアノの実技を合わせて評価され、単位を 取得できます。									

## 幼児教育学科

科目名: 臨床美術の実践 I				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 臨床美術士4級
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として保育園や幼稚園での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材の理解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. . 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力		右脳の活性化と認知症について理解することができる。			
B 専門的技術		状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。			
D 問題解決力		「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			
F チームワーク・リーダーシップ		リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			
H コミュニケーション力		造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 0 %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: 30 %	その他: 10 %	
特記事項: 特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いききボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実地・フィールドワーク</u>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【岡野】授業ガイダンス			4月11日		
②【北澤】臨床美術基幹Ⅱ「臨床美術研究成果」			4月18日	【復習】授業内容のテキストを熟読	30分
③【北澤】臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」			4月18日	【復習】制作の感想・水彩の使い心地を記入	60分
④【岡野】臨床美術アートプログラム制作「土偶」			4月25日	準備物: 4~5cmの石1個	
⑤【岡野】臨床美術アートプログラム制作「石のアナログ画」			4月25日	準備物: こぶし大の石1個	
⑥【北澤】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」①			5月2日	【復習】制作の感想・アクリル絵具の使用について	60分
⑦【北澤】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」②			5月2日	【復習】ミクストメディアを含む制作の感想を記入	60分
⑧【岡野】臨床美術学演習 「つまづき、ルービンの壺、純粹輪郭画、修正輪郭画」			5月9日	【予習】フォルメン、フリー実習(計画書) 準備物: 鉛筆(2B、4B)3本 【復習】演習を振り返る	【予習】90分 【復習】60分
⑨【岡野】臨床美術学演習「白と黒の魔術、右脳の見方、きみ子方式」			5月9日	【予習】クレーの模写	120分
⑩【北澤】臨床美術教材研究「共同制作」			5月16日		
⑪【岡野・北澤】アートプログラム実践演習「感情のアナログ画ロールプレイング」①			5月23日		
⑫【岡野・北澤】アートプログラム実践演習「感情のアナログ画ロールプレイング」②			5月23日		
⑬【北澤】臨床美術教材研究「アートプログラムにおける造形素材」			5月30日	【復習】造形素材の探索	120分
使用テキスト: 使用テキスト: 『臨床美術士養成講座4級』、芸術造形研究所『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』、芸術造形研究所				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「臨床美術」の単位を取得し臨床美術士4級取得について担当教員と相談の上、受講することができます。4月13日の授業ガイダンスで授業の内容と日程について説明します。受講者は欠席しないようにしてください。本科目は2コマ続けて行う授業になります。また開講日も不規則なため、授業日をよく確認してください。※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみを記載してあります。)					

## 幼児教育学科

科目名: 保育実習指導Ⅰ-③			担当教員 氏名: 岡野、藤井、石津、小川、宮越、 <b>幼教A、鷹西</b>			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。2年次の保育実習指導Ⅰ-③では、保育実習Ⅰ-②に向けて福祉施設の実習の意義、実習計画の立て方を学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。						・保育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9	
A	知識・理解力		福祉施設実習の意義や方法を理解する。			
E	自己管理能力		福祉施設実習に必要な手続きを行う。			
D	問題解決力		福祉施設実習の計画を立てる。			
E	自己管理能力		福祉施設報告書を作成し、各自の課題を整理する。			
G	倫理観		福祉施設利用者の内面や利用理由等を理解し、個人情報の取り扱いについて学ぶ。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %	実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項: 課題:「ポイントをまとめる」「実習報告書」その他、課題の提出によって評価し+A19:O32ます						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の課題提出と実習終了後に報告書の提出を求めます						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートに対するコメントの記入						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
①なぜ保育所以外の施設へ実習に行くのか					【事後】授業のポイントをまとめる	60
②実習施設を知ろうー社会福祉施設と児童福祉施設について					【事後】授業のポイントをまとめる	60
③生活施設の子どもの理解・保育士と施設保育士の違い					【事後】授業のポイントをまとめる	60
④実習生のマナー					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑤施設実習で求められる知識と技術/施設で働く先輩に聞く					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑥宿泊実習、感染抗体検査、事前訪問が必要な理由					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑦実習目標、実習計画の作成					【事前】授業のポイントをまとめる	60
⑧実習先の種別と内容Ⅰ					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑨実習先の種別と内容Ⅱ					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑩実習先の種別と内容Ⅲ					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑪実習先の種別と内容Ⅳ					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑫実習生が書く記録について(日誌、報告書作成について)					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑬施設実習における指導案作成について					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑭虐待を受けた子どもたち、さまざまな課題を持つ家族への理解と支援					【事後】授業のポイントをまとめる	60
⑮実習振り返り					【事後】報告書作成	180
使用テキスト:					その他参考文献など: 浦田雅夫(編著)『考え、実践する施設実習』<保育出版社>	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅰ-②を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅰ-②の履修を認めないことがあります。						



幼児教育学科

科目名: 保育実習指導Ⅱ			担当教員 氏名: 藤井、石津、小川、岡野、宮越、新任			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅱに向けて保育所の実習の意義、実習計画の立て方や保育の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。						・保育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福添マトリックスで示される番号)		1, 4, 6, 9	
A 知識・理解力	保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。					
E 自己管理能力	今までの保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。					
E 自己管理能力	保育実習に必要な手続きを行う。					
D 問題解決力	保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。					
C 論理的思考力	実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
						その他: 100 %
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習</u> 、 <u>フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題や指導案等にコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 保育実習Ⅰ-①の振り返りと自己課題の整理				【事後】①の復習	60	
② 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解				【事前】②の予習 【事後】②の復習	120	
③ 子どもの保育と保護者支援				【事前】③の予習 【事後】③の復習	120	
④ 保育士の専門性と職業倫理				【事前】④の予習 【事後】④の復習	120	
⑤ 保育実践力の育成 (1) 個々の子どもに応じたかかわり				【事前】⑤の予習 【事後】⑤の復習	120	
⑥ 保育実践力の育成 (2) 集団に応じたかかわり				【事前】⑥の予習 【事後】⑥の復習	120	
⑦ 保育実践力の育成 (3) 保育の表現技術を生かした保育実践				【事前】⑦の予習 【事後】⑦の復習	120	
⑧ 事前訪問				【事前】⑧の予習 【事後】⑧の復習	120	
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案				【事前】⑨の予習 【事後】⑨の復習	120	
⑩ 実習指導案の作成 (1) 部分実習				【事前】⑩の予習 【事後】⑩の復習	120	
⑪ 実習指導案の作成 (2) 全日実習				【事前】⑪の予習 【事後】⑪の復習	120	
⑫ 実習の総括と自己評価				【事前】⑫の予習 【事後】⑫の復習	120	
⑬ 実習報告書の作成 (1) 事例を通して				【事前】⑬の予習 【事後】⑬の復習	120	
⑭ 実習報告書の作成 (2) 全体的考察				【事前】⑭の予習 【事後】⑭の復習	120	
⑮ 実習報告会				【事前】⑮の予習 【事後】⑮の復習	120	
使用テキスト: ① 開仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』<北大路書房> ISBN: 978-4762826214 ② 開仁志(編著)『実習日誌の書き方』<一藝社> ISBN: 978-4863590427 ③ 阿部恵・鈴木みゆき(編著)『教育・保育実習安心ガイド』<ひかりのくに> ISBN: 978-4564606717 ④ 鈴木みゆき(編著)『実習のヒントとアイディア』 ISBN: 978-4-89347-022-5				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅱを履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅱの履修を認めないことがあります。						

## 幼児教育学科

科目名： 保育実習指導Ⅲ			担当教員 氏名： 岡野 宏宣 ・ 藤井 徳子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅲでは、保育実習Ⅲに向けて福祉施設の実習の意義、実習計画の立て方や保育・支援の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義</li> <li>・実習計画</li> <li>・実習報告書</li> </ul>	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9		
A 知識・理解力	保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。					
B 専門的技術	保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。					
C 論理的思考力	実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。					
D 問題解決力	保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。					
E 自己管理能力	保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 20 %	発表: 20 %	実技試験:	%	その他: 60 %
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。 保育実習Ⅰ-②(福祉施設での実習)の経験をもとに保育実践力の向上について学生間でのディスカッションを行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、レポート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:⑤～⑦で学生同士のディスカッションを行う。⑤にて報告書を作成・提出を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 保育実習Ⅰ-②の振り返りと自己課題の整理				保育実習指導Ⅲを通して目標・課題を立てる		
② 子どもや利用者の最善の利益を考慮した保育の具体的理解				【予習】配布プリントの熟読		
③ 子どもや利用者の保育・支援と保護者支援				【予習】配布おプリントの熟読		
④ 保育士の専門性と職業倫理				【予習】配布プリントの熟読		
⑤ 保育実践力の育成 (1)個々の子どもや利用者に応じたかかわり				【復習】振り返りシートの記入		
⑥ 保育実践力の育成 (2)集団に応じたかかわり				【復習】振り返りシートの記入		
⑦ 保育実践力の育成 (3)保育の表現技術を生かした保育実践				【復習】振り返りシートの記入		
⑧ 事前訪問				【復習】予習訪問の記録をまとめる		
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案				【予習】実習活動案を調べる		
⑩ 実習指導案の作成				【復習】実習指導案の記入		
⑪ 支援計画の作成				【復習】支援計画の記入		
⑫ 実習の総括と自己評価				【予習】自己評価表の記入		
⑬ 実習報告書の作成 (1)事例を通して				【復習】報告書記入		
⑭ 実習報告書の作成 (2)全体的考察				【復習】報告書記入		
⑮ 実習報告書の作成 (3)報告				【復習】他者の報告を聞いて気付きをまとめる		
使用テキスト:使用しない。				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅲ2単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅲの履修を認めないことがあります。</p>						



## 幼児教育学科

科目名: 保育実践演習			担当教員 氏名: 石津 孝治						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
保育の心理学領域の演習。主に心理学的援助と子どもの発達、遊びに焦点を当て、受講生が自主的にテーマを設定し、原則として後期の「保育心理演習」とセットとし、1年かけて掘り下げていく。ガイダンスと、個別指導によるテーマ決定の後、各自が設定したテーマについて、個人またはグループで発表しディスカッションを行う。					・心理的援助 ・発達				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			設定したテーマについて深く理解できる。						
B 専門的技術			対人援助の基礎的技法が習得できる。						
C 論理的思考力			設定したテーマを追求し、その成果として総合演習集が作成できる。						
H コミュニケーション力			発表場面等で適切に伝えられる。また、ディスカッションできる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク)									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の課題についてコメントを伝える。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①ガイダンス(授業の進め方、成績評価の方法など)									
②各自が取り組みたい内容、発表したい内容についてディスカッションと個別指導(1)				予習 自分で選んだ文献を読む。	予習30分				
③各自が取り組みたい内容、発表したい内容についてディスカッションと個別指導(2)				予習 自分で選んだ文献を読む。	予習30分				
④各自が取り組みたい内容、発表したい内容についてディスカッションと個別指導(3)				予習 自分で選んだ文献を読む。	予習30分				
⑤子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論1				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑥子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論2				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑦子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論3				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑧子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論4				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑨子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論5				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑩子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論6				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑪子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論7				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑫子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論8				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑬子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論9				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑭子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論10				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
⑮まとめと発表				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分				
使用テキスト:				その他参考文献など: 学生の課題に応じて紹介する					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

## 幼児教育学科

科目名: 保育実践演習				担当教員 氏名: 新任教員					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
保育・教育現場における音楽教育に役立てるため、歌やピアノを中心とした各楽器の演奏技術を高めながら、自らの感性を磨いていく。そしてソロやアンサンブルを含めたコンサートを企画し、学内外での実施を目指す。また音楽が子どもの成長にどのように影響するかを考察する。					音楽と子ども 感性 演奏技術				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 4. 6. 7. 8. 10				
B 専門的技術	歌、ピアノ、各楽器の奏法を学び、表現力を身につける。								
F チームワーク・リーダーシップ	アンサンブルやコンサート発表を通して協調性、積極性、責任感を培う。								
H コミュニケーション力	学内外でのコンサートを通して子どもたちと触れ合いコミュニケーション力を身につける。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:「その他 50%」の部分では学習態度を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:発表は別に定めた日時に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①ガイダンス(授業内容・目的等の説明)				授業内容の確認	60分以上				
②各楽器の奏法の確認				各楽器奏法の復習	60分以上				
③コンサート(2回分)の企画と内容の作成				演奏曲目の選考と確認	60分以上				
④実技演習1(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑤実技演習2(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑥実技演習3(ソロを中心に)				各楽器の奏法の習得	60分以上				
⑦実技演習4(ソロを中心に)				各楽器の奏法の習得	60分以上				
⑧Aプログラムの通し演習と振り返り				プログラムの振り返りとまとめ	60分以上				
⑨実技演習5(ピアノソロを中心に)				ピアノ奏法の習得	60分以上				
⑩実技演習6(ピアノソロ・連弾を中心に)				ピアノソロ・連弾奏法の習得	60分以上				
⑪実技演習7(ピアノソロ・連弾を中心に)				ピアノソロ・連弾奏法の習得	60分以上				
⑫実技演習8(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑬実技演習9(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑭実技演習10(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑮Bプログラムの通し演習と振り返り				プログラムの振り返りとまとめ	60分以上				
使用テキスト:				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

## 幼児教育学科

科目名: 保育実践演習				担当教員 氏名: 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのよう健康運動指導士として、健康づくりに関連するイベントの企画・運営を行ってきたので、その時に経験したような授業を行っているか: 企画力・コミュニケーション能力について実践的な体験をする。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
人間の発育発達に応じた健康づくり、体力づくりに関する知識について理解を深めた上で、企画力・実践力・コミュニケーション能力の向上を目指すための健康・スポーツに関するイベントを企画運営する。						・健康づくり、体力づくり ・生活習慣
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10			
A 知識・理解力	健康づくり、体力づくりに必要な知識について理解する					
C 論理的思考力	各自のテーマに沿って情報を集め分析し報告する					
D 問題解決力	様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める					
F チームワーク・リーダーシップ	自らの役割を把握し、グループ活動に積極的に関わる					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 前期中に企画・運営するイベントの参加を必須とする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①幼児の運動特性について(保育園見学)				{予習}幼児の運動特性について	15分	
②児童の運動特性について(放課後児童クラブ見学)				{予習}児童の運動特性について	15分	
③スポーツイベントのボランティア 富山グラウジーズ 4/16(土)				{予習}イベント企画について	15分	
④スポーツイベントのボランティア 富山グラウジーズ 4/16(土)				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑤スポーツイベントのボランティア 富山グラウジーズ 4/16(土)				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑥スポーツイベントのボランティア 富山グラウジーズ 4/16(土)				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑦子どもの運動イベントの企画				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑧子どもの運動イベントの実践① 集中講義 5月初旬(予定)GW予定				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑨子どもの運動イベントの実践① 集中講義 5月初旬(予定)GW予定				{復習}実践での気づきについて	20分	
⑩子どもの運動イベントの実践① 集中講義 5月初旬(予定)GW予定				{予習}イベントの企画について	20分	
⑪子どもの運動イベントの実践① 集中講義 5月初旬(予定)GW予定				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑫子どもの運動イベント振り返り				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑬スポーツの実践①				{予習}イベントの実施に向けて	20分	
⑭スポーツの実践②				{復習}実践での気づき	20分	
⑮振り返り				{復習}実践での気づき	20分	
使用テキスト: 特になし。適宜資料を配布します				その他参考文献など ・幼児のこころとからだを育てる運動遊び		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・授業は基本的に集中講義になります。						

## 幼児教育学科

科目名: 保育実践演習				担当教員 氏名: 岡野 宏宣					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのよ 臨床美術士、中・高美術教員の経験から、保育者として子どもの表現に共感する力や、子どもと造形活動を行うための工夫する力を身に付けることを目的とした授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
子ども達との関わりの中から興味・関心を知り、造形表現活動へ繋がる話題やきっかけを示すことによって子どもの知的好奇心を刺激し、子ども自身の表現が生かされる造形表現活動へつなげる。子どもの造形表現活動の姿をふり返り、学んだ内容を整理・記録する。そのなかで、子どもの理解を深め、より良い活動内容や環境の設定、保育士・幼稚園教諭としての援助・留意点を考察する。					<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの造形表現活動</li> <li>活動実践</li> <li>造形表現行為についての整理・記録</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.				
A 知識・理解力	保育・教育の場や機会における造形表現活動の意義や内容について理解することが出来る。								
B 専門的技術	保育・教育の場や機会にかかわる者としての造形表現活動に関する技術を習得する。								
C 論理的思考力	保育・教育の場や機会にかかわる者として、子どもの造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、実践した内容を整理・記録することができる。								
D 問題解決力	保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、自ら活動計画を立て、実践することができる。								
H コミュニケーション力	造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者・子どもを理解し、コミュニケーションを育むことができる。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	60 %
特記事項: 『レポート(40%)』は、各活動後の学びをまとめたレポートである。『その他(60%)』は、過程の取り組み・態度である。本科目はアクティブラーニングの一環として、保育所、幼稚園等で造形活動を行い、子ども達と直接ふれあう関わり合いの中で実践的な指導力を身につけている。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実証、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑭回目終了時に活動の記録(レポート)を課し、⑮回目の振り返り時にレポート提出と発表をもって評価していきます。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 発表時に口頭でフィードバックを行うとともに、レポートにコメントを添えて伝える。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①ガイダンス(「保育実践演習」の概略の理解)									
②子どもの造形表現活動について事例検討①				【復習】事例検討から気付きを整理	60分				
③子どもの造形表現活動について事例検討②				【復習】事例検討から気付きを整理	60分				
④造形表現の実践(子どもの造形活動を想定して)①				【復習】学びの整理	60分				
⑤造形表現の実践(子どもの造形か道を想定して)②				【復習】学びの整理	60分				
⑥子どもの興味・関心を知る(保育園等で子どもの観察)				【復習】子どもの興味・関心の整理	120分				
⑦子どもの興味・関心に関する保育者へのアンケートの作成				【復習】アンケートの準備	120分				
⑧保育者のアンケートを元に、再度、子ども達の興味関心について知る				【復習】子どもの興味・関心の整理	60分				
⑨子どもの興味・関心を刺激するきっかけ(保育者の意識的な関わり)を考える				【復習】きっかけの材料作り	120分				
⑩きっかけを提示し子どもの興味・関心を造形活動へつなげる関わりを実践する①				【復習】記録記入	60分				
⑪きっかけを提示し子どもの興味・関心を造形活動へつなげる関わりを実践する②				【復習】記録記入	60分				
⑫子どもの興味・関心を元にした造形活動案を考える				【復習】材料・道具の準備	120分				
⑬学生による活動案のロールプレイング				【復習】学んだことを整理・記録	60分				
⑭子ども達と造形表現活動の実践				【復習】学んだことを整理・記録	60分				
⑮造形表現活動実践の振り返り、まとめ									
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 様々な造形表現活動を授業を履修した学生と共に、子どもとかかわる造形表現活動の題材研究をしながら、計画・実践していきます。									

幼児教育学科					
科目名: 保育実践演習			担当教員 氏名: 藤井 徳子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 森のようちえんや自然体験活動の現場で、実践を通して具体的に学び、自然保育技術を高める。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
自然保育をテーマとし、実践的活動を通して自然保育に関する知識や自然保育技術の向上を目指す。アクティブラーニングの一環として、森のようちえんや自然体験活動に参加、また企画・実践し、主体的に課題探求に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の自然体験</li> <li>・幼児の発達理解</li> <li>・幼児の遊び</li> <li>・野外活動の危機管理</li> <li>・保育援助</li> </ul>	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短マトリクスで示される番号)		1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	
A 知識・理解力	幼児の内面理解・発達理解を深める。				
B 専門的技術	幼児期の自然体験の意義を理解し、自然保育の在り方を学ぶ。				
C 論理的思考力	個々の演習テーマ・研究課題を設定し、現場での子どもとの関わりをもとに考察を深める。				
D 問題解決力	幼児の発達に必要な経験や援助のあり方を自分なりに構築する。				
H コミュニケーション力	保育現場の方々と、また学生同士で協力して自然保育の実践に取り組み、自身の気づきや学びを共有する。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 80 %	
特記事項: 受講態度やグループ活動での貢献度等の総合評価とする。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
① オリエンテーション(演習内容、方法、スケジュール等)			【事後】①の復習	240	
② 日本と世界の自然保育事例に学ぶ			【事前】②の予習 【事後】②の復習	240	
③ 自然保育演習1について 活動プログラム作成			【事前】③の予習 【事後】③の復習	240	
④ 自然保育演習1 ⑤ 自然保育演習2 ⑥ 自然保育演習3			【事前】演習準備 【事後】演習振り返り	240	
⑦ 自然保育演習1 振り返り 自然保育演習2 活動プログラム作成			【事前】⑦の予習 【事後】振り返りレポート	240	
⑧ 自然保育演習1 ⑨ 自然保育演習2 ⑩ 自然保育演習3			【事前】演習準備 【事後】演習振り返り	240	
⑪ 自然保育演習2 振り返り 自然保育演習3 活動プログラム作成			【事前】⑪の予習 【事後】振り返りレポート	240	
⑫ 自然保育演習1 ⑬ 自然保育演習2 ⑭ 自然保育演習3			【事前】演習準備 【事後】演習振り返り	240	
⑮ 全体振り返り			【事前】①～⑭復習 【事後】報告書作成	120	
使用テキスト: 特に使用しない。			その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 野外での自然保育演習がメインとなります。まずは自然保育の楽しさを自身で体感してください。					

## 幼児教育学科

科目名: 保育実践演習			担当教員 氏名: 宮越 浩子						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 教育現場での経験をもとにした具体的な事例を提供しながら、子ども・保護者に対するよりよい支援の在り方を実践的に学ぶ。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
子ども・子育て支援をテーマとし、子ども・保護者を取り巻く環境および現状への理解を深めるとともに、保育者に求められる支援の在り方について学びを深める。各自が課題を設定しながら現場に出るとともに、主体的な調査、観察、討議などに基づき演習を進める。					<ul style="list-style-type: none"> <li>引き出す関わり(コーチングを用いたコミュニケーション)</li> <li>自己対話</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)						
A 知識・理解力			子ども・保護者を取り巻く環境および現状への理解を深める。						
B 専門的技術			保育職に求められる専門的なコミュニケーション力(引き出す関わり)を習得する。						
C 論理的思考力			自分の研究課題を設定し、現場での子ども・保護者とのかかわりをもとに考察を深める。						
H コミュニケーション力			発表場面等で自分の学びを適切に伝えられる。また、積極的にディスカッションに参加する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 「レポート:30%」は、ゼミでの学び、文献や現場体験などからのレポートを評価する。 「発表:20%」は、集団的な学びの場での発表を評価する。 「その他:50%」は、アクティブラーニングの一環として、現場での観察・体験における態度を評価する。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>レポート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習</u> 、 <u>フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは、ゼミでの学び、文献や現場体験などをもとに作成する。発表は、集団的な学びの場での発表ならびに終末に各自のテーマに基づく発表会を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート等は評価終了後返却し、発表はその都度評価を伝え、学びを深められるよう指導する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①ガイダンス、研究の進め方について(授業の進め方、成績評価の方法など)				各自の問題意識を書き出す	【予習】60分 【復習】60分				
②子どもを取り巻く環境および現状について				②での気づきを整理する。	【復習】60分				
③保護者を取り巻く環境および現状について				③での気づきを整理する。	【復習】60分				
④各自が取り組みたい内容について文献研究と個別指導1				④での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑤各自が取り組みたい内容について文献研究と個別指導2				⑤での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑥各自が取り組みたい内容について文献研究と個別指導3				⑥での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑦子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援1)				⑦での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑧子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援2)				⑧での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑨子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援3)				⑨での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑩保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティの役割)				⑩での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑪保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの観察・調査1)				⑪での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑫保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの観察・調査2)				⑫での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑬保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの観察・調査3)				⑬での気づき・学びの振り返り	【復習】60分				
⑭これまでの学びのまとめ(プレゼンテーション作成)				プレゼンテーション作成	【復習】60分				
⑮これまでの学びのまとめ(ゼミ内発表会・討議)				⑮について学びのレポート作成	【予習】60分				
使用テキスト: 使用しない。 適宜、資料を配布したり、紹介したりする。				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): よりよい支援の在り方について学びを深めることは、自己のコミュニケーション力を高めることにも繋がります。課題意識を明確にもち、目指す保育者像に向かって「わたし」をつくりかえていきましょう。									